

あなたと 博物館

No. 250
2024.12.15

特集：松本市立博物館 令和6年度特別展
「春を待つ涅槃図」



松本市重要文化財 涅槃図

笹田常住（狩野養碩）／享保14年（1729）

紙本着色／西善寺蔵

松本藩の御用絵師によって描かれた涅槃図。もとは松本城下の念来寺の什物でしたが、明治の初め、廃仏毀釈の嵐の中にあったその寺から、信徒たちによって同じ弾誓派の西善寺（現・松本市和田）へと移されました。

大画面いっぱいに描かれるドラマチックな情景は、この文化財の軌跡と相まって、今も拝する人に驚きと感動を与えます。



Matsumoto City Museum

松本市立博物館 令和6年度特別展

2025.2.1 sat ▶ 3.3 mon

「春を待つ涅槃図」

古くから日本人の暮らしに息づいてきた仏教。その宗派を問わず、各寺院に什物として備えられてきた涅槃図は、お釈迦さまの命日である2月15日または月遅れの3月15日前後に行われる法要・涅槃会の本尊として掲げられてきました。



涅槃図が掲げられた高松寺の本堂(令和6年2月撮影)

涅槃図は仏教の教えを誰にでもわかりやすく絵で示したもので、経典や伝説などをもとに、お釈迦さまや弟子たち、様々な生きものなどが描かれます。

松本に伝わっているのは江戸時代中期以降の涅槃図。松本藩御用絵師や絵の得意な和尚さんなど、絵師の顔ぶれも様々です。涅槃図の図様はおよそまっていますが、一点一点細かく丁寧に描かれており、手がける絵師の創意工夫も、迫力ある大画面から随所に見とることができます。

市民の方が教えてくれた文化財

本展を準備していくにあたり参考としたのは、松本市歴史文化基本構想(平成30年策定)の中で市民の皆さんの調査により抽出された、総数11,632件にのぼる文化財のリストです。

これを手がかりに、関連のある文化財を改めてひとつずつあたっていくことで、広く知られていなかった貴重な涅槃図の数々に出会うことができました。

そんな機会を得て、大切に守っておられる地域の方からも直接お話を伺えたことが、この展覧会を企画する上で大きな糧となっています。



天保の頃、寿竹瀝の地藏堂に住した梅岳和尚(梅笠とも)の作と伝わる生蓮寺の涅槃図。この梅岳和尚、絵を描いては人々を救済した恩人として、今もこの地域で語り継がれています。寿百瀬の正念寺にも同じ作者の涅槃図があり、本展ではこの2点を同時公開します。

お釈迦さまのもとに集う人々

涅槃図が受け継がれているお寺または町会では、涅槃図を掛け、「やしようま」とよばれる米粉で作った菓子を供えるなど、お釈迦さまにあやからうとそれぞれに法要を行います。

涅槃図を前に集う人々は和やかで楽しげです。寒さの続くこの時期、コミュニティにとって心通わすお楽しみのお場ともなっているようです。

特色ある習わしとともに、大切な文化財を未来へ引き継ごうと活動されている様子をご紹介します。



涅槃図を前に、数珠をたぐりながら念仏を唱える地域の皆さん
(大庭公民館にて・令和6年2月14日撮影)



生蓮寺の涅槃図にお供えされたやしようま
(令和6年3月撮影)

県内の貴重な涅槃美術にも会える

八相涅槃図は、中央にお釈迦さまの涅槃の場面を、その周りには涅槃前後のエピソードを描く全国的にも希少な涅槃図です。写真にある場面は、臨終を前にしたお釈迦さまが、虚空に昇って金色身を表わしているところで、立ち会った者たちは手を合わせてそれを見上げています。制作年代を中世にまでさかのぼる涅槃図ですが、ドラマチックなその光景は、今見ても新鮮な驚きをおぼえます。

金箔を細く切って施した截金という装飾技法にも注目です。



重要文化財 八相涅槃図(部分)
鎌倉～南北朝時代 絹本着色 飯田市・開善寺蔵
画像提供:飯田市美術博物館

涅槃図をつぶさに見つめると、おもしろい発見に出会います。それぞれの涅槃図に込められた歴史や物語を紐とぎながら、知れば知るほどに魅力あふれる仏教絵画の世界にぜひ親しんでみてください。

(松本市立博物館 学芸員／前田利恵)

日月二星を描く涅槃図

はじめに

特別展「春を待つ涅槃図」のなかで最も大きな涅槃図、和田の西善寺の仏涅槃図は、多くの涅槃図がお釈迦様が亡くなった2月15日を象徴して満月を描いているのと異なり、太陽と月がセットで描かれています。このような涅槃図がとても珍しいということは、かつて松本市文化財審議委員会の委員を務めていた宮島潤子先生が『文化財信濃』に寄せた論文(注1)で指摘していますが、それ以後の研究報告は無いようです。

本特別展では、宮島先生の研究後に松本で発見された2点を公開していますので、本稿では日月二星を描く涅槃図の意義について私見を述べてみます。

1 これまで知られていた日月二星を描く涅槃図

日月二星を描く涅槃図は、西善寺のほかには東京大井にある養玉院如来寺と日光市にある観音寺の刺繍涅槃図があることを宮島先生が先述の論文で報告しています。

西善寺の涅槃図(表紙写真)は、縦4.4m、横5.1mの大幅で、現存する涅槃図の中では、民間信仰史上最大級といわれています。左下に「狩野中務卿法印養朴門人笹田常住謹圖之」の落款があり、裏面には「信州松本筑摩郡光明山念来寺中興三世教圓實明相阿代」「享保十四己酉天孟冬吉祥日十方施主信男信女等得生佛果也」と墨書されています。これを受け、松本市教育委員会のホームページに「享保14年(1729年)、融通念仏の勧化によって十方の信男信女、つまりあらゆる階層の男女の喜捨を受け、城主戸田光慈の支援のもとにお抱え絵師の協力を得て仕上げた」と解説していますが、筆者はこの解釈には賛同しかねます。

作者の笹田常住は狩野常信(1636～1713)の門人で、師の名前から「常」の一字を拝領しているので、非常に優秀な絵師であったことがわかります。常住は養碩という別号もあり、これも常信の別号である養朴からの拝領です。水野氏時代の家臣団の記録には養碩とともに笹田養徳という絵師が見えます。紙幅の制約から詳しく触れる余裕はありませんが、養徳は養碩の父と思われ、おそらく常信に師事したものの別号一字拝領にとどまったようです。笹田親子は水野氏の御用絵師であることから、水野氏時代に手掛けた念来寺の涅槃図ですが、完成した時は戸田氏の治世に移っていたと解釈すべきでしょう。『信州筑摩郡松本領光明山

念来寺常什物記全』に「一涅槃尊像 四方四間 狩野養碩筆 相阿代」とあるのがこの涅槃図と思われます。

養玉院如来寺の涅槃図(右写真)は、上部に大僧正天海の賛があり、右下に長谷川等言の落款があります。天海が大僧正と記していることから、元和6年(1620)から天海が亡くなった寛永20年(1643)頃の作品とみられます。養玉院如来寺は、寛永12年に創立された天海を開山と



養玉院如来寺の涅槃図

する上野寛永寺の塔頭三明院を前身とする養玉院と、寛永年間(1624～1644)に但唱が芝高輪に創立した如来寺が明治41年(1908)に現在の大井に移転し、大正12年(1923)に養玉院と合併し現在の形となりました。但唱は念来寺を開いた長音の師で弾誓派の二世です。作者の等言は長谷川派に学んだ絵師と思われませんが、詳しいことは分かりません。

観音寺の刺繍涅槃図(右写真)については、栃木県立博物館の千田孝明氏が「日光市観音寺蔵(大平町久遠院旧蔵)刺繍涅槃図についての考察—近世における刺繍涅槃図の諸本を参考に—」(注2)で詳細に報告しています。以下、この報告を参考



観音寺の刺繍涅槃図

に述べてみます。涅槃図の周囲に8,500人を超える結縁者の名前が刺繍されていますが、これをすべて翻刻しています。涅槃図の上下には、右上から縦に、鉢石山無量寿院観音寺と山号、院号、寺号が墨書された絹が貼られ、左下には涅槃図を作る趣旨が、中央下には制作者が刺繍されています。山号などの書かれた絹は、この涅槃図の所有が移ったための措置と思われます。制作の意図は、春日明神の本地仏(ここでは釈迦如来)の祭礼である2月15日のよきことを後代まで定

めるため、当寺22世の豪弁法印の発願で寛文9年(1669)12月26日に完成したようです。豪弁が22世を務めたのは栃木市大平町の春日神社境内にあった別当寺の久遠院だそうです。絵師近藤次兵衛の他に縫師3名と筆者の名が刺繍されています。

2 新たな2点の涅槃図

今回の涅槃図展では、松本市内で新たに確認された日月二星を描く涅槃図を展示します。里山辺の廣澤寺と島立の大庭町会に伝わる涅槃図がそれです。それぞれに詳しく見ていきます。

廣澤寺には2幅の涅槃図がありますが、そのうちの1幅に日月二星が描かれています。涅槃図には大きく2つの形式があるといい、第一形式は釈迦が両手を体側に付けて横臥し、宝台は向かって右側面を見せる構図をとります。第二形式は釈迦が右手で腕枕をして横臥し、宝台は左側面を見せる構図です。



廣澤寺の涅槃図

廣澤寺の涅槃図(上写真)は今回出展されている涅槃図では唯一、第一形式に分類されます。また短冊形に菩薩や仏弟子らの名前が記されているのも廣澤寺の涅槃図だけです。第一形式を採用しているものの右手は胸にあり、仏弟子や動物、昆虫も多く描かれているので、制作時期は念来寺の涅槃図と大きくは変わらないと思われます。

廣澤寺は念来寺の東隣に全昌寺という末寺を従えていました。全昌寺は善光寺大勸進松本説教所を経て、現在は善昌寺と名を変え善光寺大勸進の末寺となっています。この善昌寺にも念来寺の什物の一部が保存されていることから、藩主小笠原氏の菩提寺の末寺として廃仏毀釈を免れた全昌寺に念来寺の什物の一部が伝えられていたことがわかります。その後明治14年(1881)に全昌寺が廃されるにあたり、本尊の釈迦如来坐像が廣澤寺に遷されており、本涅槃図も念来寺から全昌寺を経て廣澤寺に遷された可能性も否定できないように思います。

大庭町会の涅槃図(右段上写真)は、右下の白地の枠に絵と均衡がとれないほど大きな字で「清山邦□筆」と書かれていますが、この絵師の詳細は不明です。ま

た、落款をするために枠を切ることは一般的ではなく、本来は所蔵する寺院名やその時期、住職等について記す場所なので、この涅槃図が書かれた当初に記されたものかどうか疑問が残ります。江戸時代、大庭には惣輪寺がありましたが、廃仏毀釈で廃寺となりその什物が伝えられています。この涅槃図も惣輪寺に伝わった什物と思われる。



惣輪寺の涅槃図

まとめにかえて

非常に珍しいとされる日月二星を描く涅槃図はこれで5点になりました。そのうち3点が松本にあります。まだ調査が進んでいないだけで、これから報告されるものも少なくないようにも思いますが、ここで若干の考察をしてみます。

5点のうち観音寺と大庭の涅槃図を除く3点が弾誓派寺院と関係がありそうです。また観音寺のある日光には天海も深いかわりがあり、但唱は天海の思想を汲んでいるので観音寺の刺繍涅槃図も先の3点と関係があるかもしれません。

宮島先生は、釈迦如来とその教えである法華経を讃嘆した多宝如来を象徴する法華曼荼羅に、天海が主導して日月二星を取り入れ制作された輪王寺の法華曼荼羅と同様に、涅槃図にも日月二星を描いたのではないかと推測しています。天台宗が根本とする法華経で日月二星を解釈したのです。

もっと単純に、涅槃図に描かれる日月二星を二元論で解釈し、両方を描くことで、但唱がたどり着いた五智如来と同じくあまねくすべてを救うことを表しているとみるのはいかがでしょうか。答えは一つではないかもしれませんが、もっと多くの日月二星を描く涅槃図が見つければ真相に近づくでしょう。

(旧制高等学校記念館 館長/木下守)

注

- 1 「民間信仰史上最大級の『釈迦涅槃図』に秘められた松本の歴史—西善寺寺宝の修復作業を追って」、『文化財信濃』第29巻第3号 長野県文化財保護協会 平成14年、「西善寺釈迦涅槃図にみる日月二座の新しい様式」同第30巻第4号 同 同16年
- 2 『栃木県立博物館研究紀要—人文—』第20号 平成15年

北杜夫さん愛用の書斎机

はじめに

作家の北杜夫さん(本名:斎藤宗吉、昭和2年(1927)~平成23年(2011))は、松本高等学校の卒業生です。旧制高等学校記念館では、令和3年(2021)に北杜夫さんのご遺族から、北さんの遺品約2,000点の寄贈を受けました。ここでは、寄贈資料のなかでも代表的なものとして、当館3階展示室「寄贈品紹介コーナー」で展示している、北さんが愛用した書斎机と、机の前に貼られている色紙について紹介します。

1 北杜夫さんについて

北杜夫さんは、昭和35年(1960)に『夜と霧の隅で』で第43回芥川賞を受賞した作家です。芥川賞受賞作のほか、ベストセラー『どくとるマンボウ航海記』で代表される「マンボウ・シリーズ」のエッセイでも知られています。



北杜夫

『どくとるマンボウ青春記』
(新潮文庫刊)

同シリーズの『どくとるマンボウ青春記』では、北さんが昭和20年(1945)から約3年間過ごした松本高等学校での、旧制高校ならではの「バンカラとカンゲキ」のエピソードを、ユーモアたっぷりに紹介しています。また、北さんが高校在学中、昆虫採集のために頻りに訪れた上高地の自然も抒情豊かに描かれています。

ちなみに、北さんが当時採集した標本は今でも保存されており、今年春に当館ギャラリーで開催した企画展「北杜夫『憂行日記』をたどる—作品と昆虫標本にみる信州の自然—」(信州大学との連携企画展)において展示しました。

2 北杜夫さん愛用の書斎机

北杜夫さんが愛用した書斎机は、寄贈受入後、令和4年(2022)1~2月の当館ギャラリー企画展「—多彩で多才—面白いぞ北杜夫さん」(第10期市民学芸員養成講座成果発表企画展)で公開しました。その後、書斎周りの引出しなどとともに、3階展示室に移設しました。

この書斎机は、北さんが大学を卒業して本格的に作家としての活動を開始した頃に東京の古道具屋で購入し、後に家を新築したときにも買い替えることなく使い続け

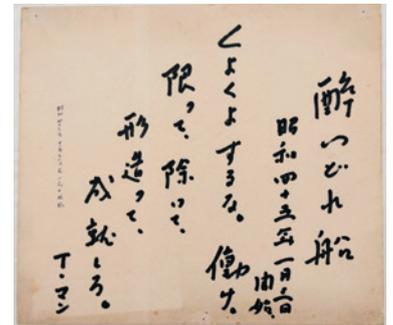
ていたものです。この机を愛用したいきさつについては、北さんの『マンボウ酔族館 パートV』に収録されているエッセイ「机と椅子」に詳細に書かれています。



北杜夫さんが愛用した書斎机とその周辺
(旧制高等学校記念館 寄贈品紹介コーナー)

3 書斎机の壁に貼られている「Z旗」

また、机の前の壁には北さん直筆の色紙が2枚貼ってありますが、左側の色紙は、北さんが『酔いどれ船』の執筆を始めたときに貼ったものです。このような色紙のことを北さんは「Z旗」と称しており、「これはという作品にかかるとき」に貼っていました。ここに書かれている言葉は、北さんが愛した作家であるトーマス・マンの短編「悩みのひとき」にあるもの



書斎机の前に貼られている「Z旗」

で、「この文句を見ると、怠け者の私も気が引きしまったものである。」とエッセイ「机と椅子」に書いています。

おわりに

この机の上から『楡家の人びと』、『白きたおやかな峰』、『どくとるマンボウ昆虫記』など、数多くの作品が生まれました。この書斎机が、北さんの母校である松本高等学校の敷地内にある旧制高等学校記念館に置かれているという縁を感じながら、多くの皆さまにご覧いただけますよう、ご来館をお待ちしております。

(旧制高等学校記念館 学芸員/鈴木美恵)

いよいよ再オープン! 国宝旧開智学校校舎

令和3年(2021)6月から耐震対策工事と防災設備工事のため長期の休館となっていた国宝旧開智学校校舎ですが、今年10月で工事が完了し、11月9日に再開館となりました。今回は、長期休館した旧開智学校でどんな工事を行ったのか、また再開にあたっての取組みについて紹介します。

耐震対策工事

旧開智学校校舎は平成28、29年度に耐震基礎診断を実施しました。その結果、震度6強以上の大地震動時に倒壊の危険性があるという判定になったため、耐震対策工事を行うことになりました。

主な補強方法は、漆喰壁の内部に構造用合板などの補強材を入れた「壁補強」や床下に鉄筋コンクリート製の基礎や溝型鋼を設置した「基礎補強」、2階床面と小屋裏に横方向の鋼製ブレースなどを入れた「水平構面補強」などです。ほとんどが見えない場所への補強となったため、工事前と校舎の見た目は変わっていませんが、地震から守る補強材がそこかしこに隠れています。

防災設備整備工事

防災設備整備工事は、火災報知器や消火栓など火災をはじめとする災害に備えるため、防災設備類の一斉更新を行いました。初期消火対策に重点を置き、異常の発見を早め、迅速な消火活動を行えるようにさまざまな機器や施設を整備しました。耐震対策工事の工事休館にあわせる形で、令和4年後半から今年の10月まで工事を

実施しました。

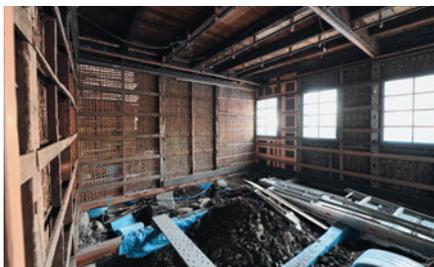
再オープンした旧開智学校校舎

国宝校舎を未来へ守り続けるための工事が終わり、いよいよ一般公開が再開となります。今回の再開館にあたり、全面的に展示をリニューアルしました。これまでのように旧開智学校の価値や資料のおもしろさを伝えつつ、現代の教育課題について資料をもとに考える展示や今の小学生が想い描く未来を紹介する展示などを整備しましたので、ぜひご覧ください。

再開日となった11月9日には、近隣の住民の方々と連携したイベントも開催しました。また、地域の菓子店にご協力いただき、再開を記念した「旧開智スイーツ」の開発にも取り組みました。旧開智学校のシンボルとなっている天使の顔のクッキーや文明開化を思わせるカステラ、マカロンなど、見て楽しい食べておいしいお菓子ができあがりました。旧開智学校の売店などで販売していますので、ぜひお試しください。

今回の工事によって、旧開智学校校舎は地震や火災をはじめとする災害への備えが大きく前進しました。未来に守り伝えつつ、多くの方にその価値を感じていただけるよう、これからも学校や地域との連携をしながら更なる活用を図っていきます。ぜひ新しくなった旧開智学校にご期待ください。

(国宝旧開智学校校舎 学芸員/遠藤正教)



解体工事の様子



壁補強の様子



基礎補強の様子



復旧工事(漆喰壁)の様子



防災用ポンプ室



易操作性屋内消火栓

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/>



館名称	1月	2月	3月
松本市立博物館	■特別展「年越し新春刀剣展～我が家の名刀・刀装具～」 12月20日(金)～1月20日(月)	■特別展「春を待つ涅槃図」 2月1日(土)～3月3日(月)	
旧制高等学校記念館		■企画展「小谷隆一 生誕百年回顧展 一山を登り、山を読み、山を慈しむ」 2月1日(土)～3月23日(日)	

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

特別展「年越し新春刀剣展

～我が家の名刀・刀装具～

会期 12月20日(金)～令和7年1月20日(月)
午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
会場 松本市立博物館2階特別展示室
閉室日 毎週火曜日
12月29日(日)～令和7年1月3日(金)
ただし1月1日(水)は特別展のみ開室
※午前10時～午後3時(入室は午後2時30分まで)
料金 無料

〈関連事業〉

講演会

講師 宮入 法廣氏
(長野県無形文化財日本刀制作技術保持者)
日時 令和7年1月12日(日)午後1時30分～午後3時
会場 松本市立博物館講堂
料金 無料
定員 80名(先着順)
※予約不要

ギャラリートーク

日時 令和7年1月11日(土)、13日(月祝)
両日とも午後1時30分から
会場 松本市立博物館2階特別展示室

刀剣よろず相談所

日本美術刀剣保存協会長野県南支部による刀剣についての相談窓口です。
日時 令和7年1月11日(土)、12日(日)、13日(月祝)
午前10時～正午
会場 松本市立博物館2階特別展示室
※当日受付

松本城野鳥観察会

博物館で簡単な講義を行ったあと、松本城周辺で様々な野鳥を観察します。
日程 令和7年1月11日(土)午前9時30分～11時
会場 松本市立博物館講堂・松本城公園
参加料 無料
定員 15名
対象 小学生以上の子どもとその保護者・大人一般
持ち物 野外を歩きやすい服装、帽子、水分補給用の飲み物、筆記用具など
講師 松本市立博物館職員
申込み 令和6年12月6日(金)～12月26日(木)
※QRコードよりお申し込みください(抽選)



あとがき

松本市立博物館が開館してから早1年が経過しました。11月9日には旧開智学校校舎がリニューアルオープンし、ますます盛り上がりを見せています。人口当たりの博物館数が日本一の長野県では、それぞれの館が多様な特色を持っています。ぜひ気になる施設へお出かけください。

(松本市立博物館 竹藤 敏)

特別展「春を待つ涅槃図」

会期 令和7年2月1日(土)～3月3日(月)
午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
会場 松本市立博物館2階特別展示室
閉室日 毎週火曜日
ただし2月11日(火祝)は開室、2月12日(水)は閉室
観覧料 常設展との共通券 大人1,000円(800)
大学生700円(600) 高校生以下無料
※()内は20名以上の料金

〈関連事業〉

涅槃図の絵解き

かつて仏教の教えを広めるため盛んに行われていた絵解きを博物館で再現します。
講師 小林 玲子氏(長野郷土史研究会副会長・長野の絵解きを広める会代表)
日時 令和7年2月1日(土)、15日(土)
両日とも午後1時30分から
会場 松本市立博物館2階特別展示室
料金 本展観覧料

ミニ展示 涅槃会とお供えもの

多彩で目にも楽しい涅槃会のお供えものを紹介します。
日時 本展開催期間中
会場 松本市立博物館2階図書情報室
料金 無料

早春の行事食 やしろうま作り

涅槃会にお供えする彩りの美しいお団子を作ってみましょう。
日時 令和7年2月11日(火祝)
午前10時から午後1時(予定)
会場 大手公民館料理実習室
定員 10名程度(要申し込み。詳細はHPをご覧ください)

担当学芸員によるギャラリートーク

日時 令和7年2月8日(土)、2月22日(土)
両日とも午後1時30分から
会場 松本市立博物館2階特別展示室
料金 本展観覧料

旧制高等学校記念館から

☎0263-35-6226

企画展「小谷隆一 生誕百年回顧展

一山を登り、山を読み、山を慈しむ」

会期 令和7年2月1日(土)～3月23日(日)
会場 旧制高等学校記念館 1階ギャラリー
休館日 毎週月曜日
ただし2月24日(月祝)は開館、2月25日(火)は休館
観覧料 無料(2・3階常設展示室は通常観覧料が必要)

あなたと博物館 No.250

発行年月日/令和6年(2024)12月15日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0874 松本市大手3丁目2番21号
Tel.0263-32-0133
URL: <https://www.matsu-haku.com/>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社



松本市立博物館
Matsumoto City Museum